

クマの捕獲頭数、前年度の4倍超

「クマ対策の取り組み状況」について説明を受けた。

【捕獲・目撃頭数】

町内におけるクマの捕獲頭数は前年度比約4倍、目撃頭数は前年度比約3倍を超える状況となっている。

○捕獲頭数 35頭

○目撃頭数 196頭
(11月28日現在)

【クマ対策の状況】

○不要果樹伐採

129本

○緩衝林整備(下刈り
枝落とし)

・県事業…鮎貝ほか町
内4地区

・町事業…深山地区

○緊急河川刈払い

・県事業…東高玉地内

○緊急銃猟実施

・東高玉地内

○緊急銃猟実施

質疑

緊急銃猟

【委員】緊急銃猟の現場にはどのような方々がいたのか。

【当局】猟友会・警察・町職員等が集まり判断を行った。実施の際は、交通対応を警察に、住民避難は町と地元の方々の協力をいただいた。その上で、要件を確認し実施した。

今後の対策は

【委員】今後いかにして被害を防ぐか。散歩や通常の生活を確保することも重要だが今後の対策は。

【当局】クマ対策は、今後何年も続く可能性がある。鳥獣対策の計画を適時見直していく。また、刈払い等も継続して実施していきたい。

クマの捕獲・目撃頭数の推移

年度	捕獲	目撃
R3	5	34
R4	9	49
R5	7	116
R6	8	61
R7	35	196

R7は11月28日現在



【課題整理】

これまでの通過型観光から滞在型観光にシフトすることにより、観光客の滞在時間の拡大や宿泊者数の増加を図り、観光消費額の増加を目指すことが持続可能な観光に不可欠となっている。

【本事業の目的】

これまで各事業者等が独立して展開していた本町の観光資源を「※ウエルネスツーリズム」をキーワードに連携強化を目指し取り組むもの。

【これまでの取り組み】

- 基礎調査
- 町民・町外にアンケート調査を実施
- 理解を深めるための勉強会 2回
- 体験会の受け入れ

質疑

観光消費額の増加

【委員】観光消費額の増加を目指すところだが、具体的には。

【当局】長期滞在を促すことで、複数箇所でお金を使っていた方向にシフトを図りたい。

行政の役割は

【委員】主役は民間事業者だと思うが、行政が関わる意義とは。

【当局】関係者の話し合いの場面を持つことで、新たな動きが出てきたと感じている。実際に取り組む方々と連携しつつ、バックアップをしていきたい。

通過型から滞在型観光にシフト

「地域循環型ウエルネスツーリズム推進事業の取り組み状況」について説明を受けた。



パレス松風からの眺望

※旅先で「健康と幸福」を追求する新たな旅行スタイル。心理的安定を含めて注目されている。

その他
○白鷹町食育・地産地消推進計画の策定について
など、説明があった。